

八女を襲った大雨（九州北部豪雨）

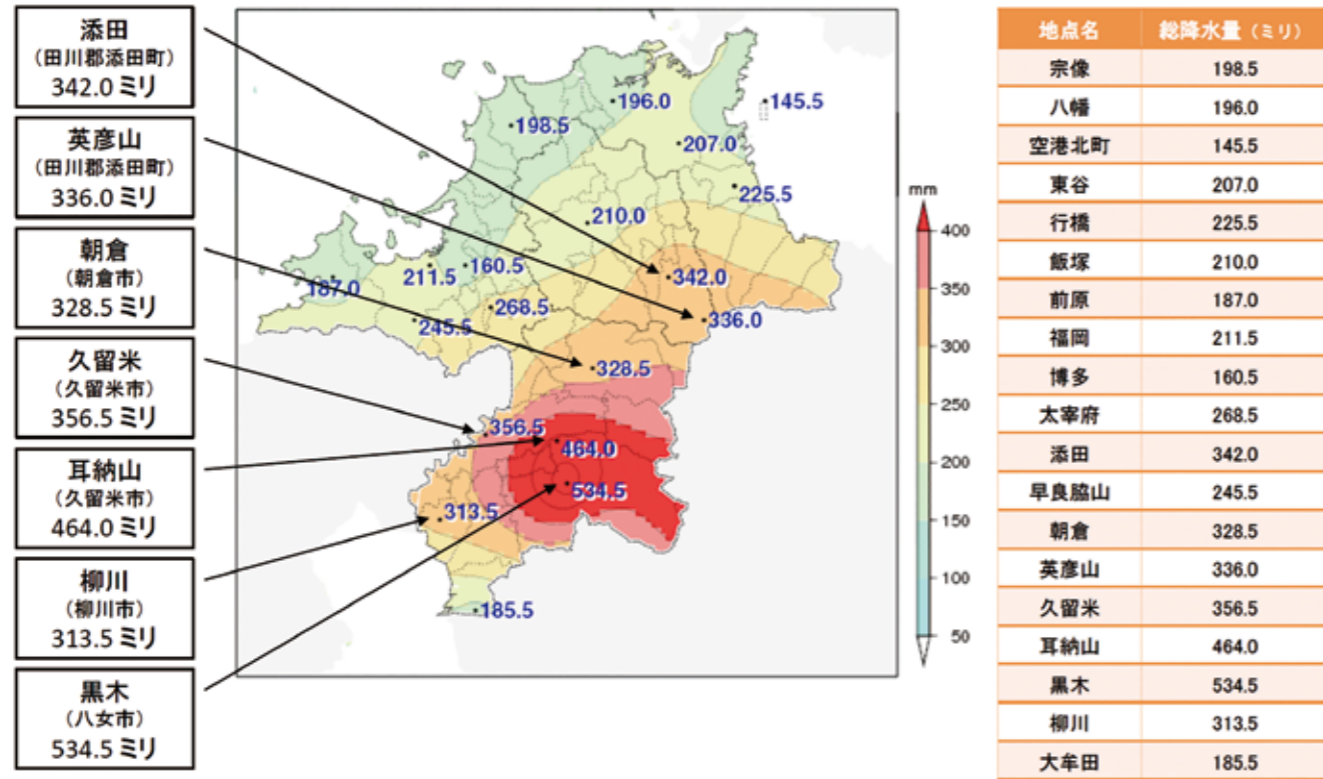
平成24年7月11日から14日にかけて、福岡県、熊本県、大分県、佐賀県の九州北部地方を豪雨が襲い、各地に大きな被害が出た。八女市では7月13日朝方から14日の昼にかけて、これまでに経験したことのない豪雨となった。

八女市の降雨量は観測史上1位を記録し、河川のはん濫や土石流が発生して孤立集落が発生した。また市内各所の道路や橋梁は損壊し、多くの建物も倒壊。市はかつてない大災害に見舞われた。その大災害の原因となった気象条件と、メカニズムをここで紐解く。

八女市を襲った雨は、7月11日朝に朝鮮半島付近で停滞していた梅雨前線によるものだった。この梅雨前線が12日朝に対馬海峡まで南下したため、東シナ海上から暖かく湿った空気が九州北部地方に流入して、大気の状態が非常に不安定になって大雨になった。発達した雨雲が線状に連なり、次々と流れ込んだ熊本県熊本地方、阿蘇地方、大分県西部で、12日未明から朝にかけて猛烈な雨が続いた。阿蘇市阿蘇乙姫では、同日1時から7時までに459.5ミリ(7月の月降水量平年の80%)を観測し、記録的な大雨となった。対馬海峡にあった梅雨前線は北上し、13日から14日にかけて朝鮮半島付近で停滞した。九州北部地方には東シナ海上から暖かく湿った空気が流入して大気の状態が非常に不安定となった。雨雲が次々と流れ込んで発達し、13日は佐賀県、福岡県、14日は福岡県、大分県を中心に大雨となった。

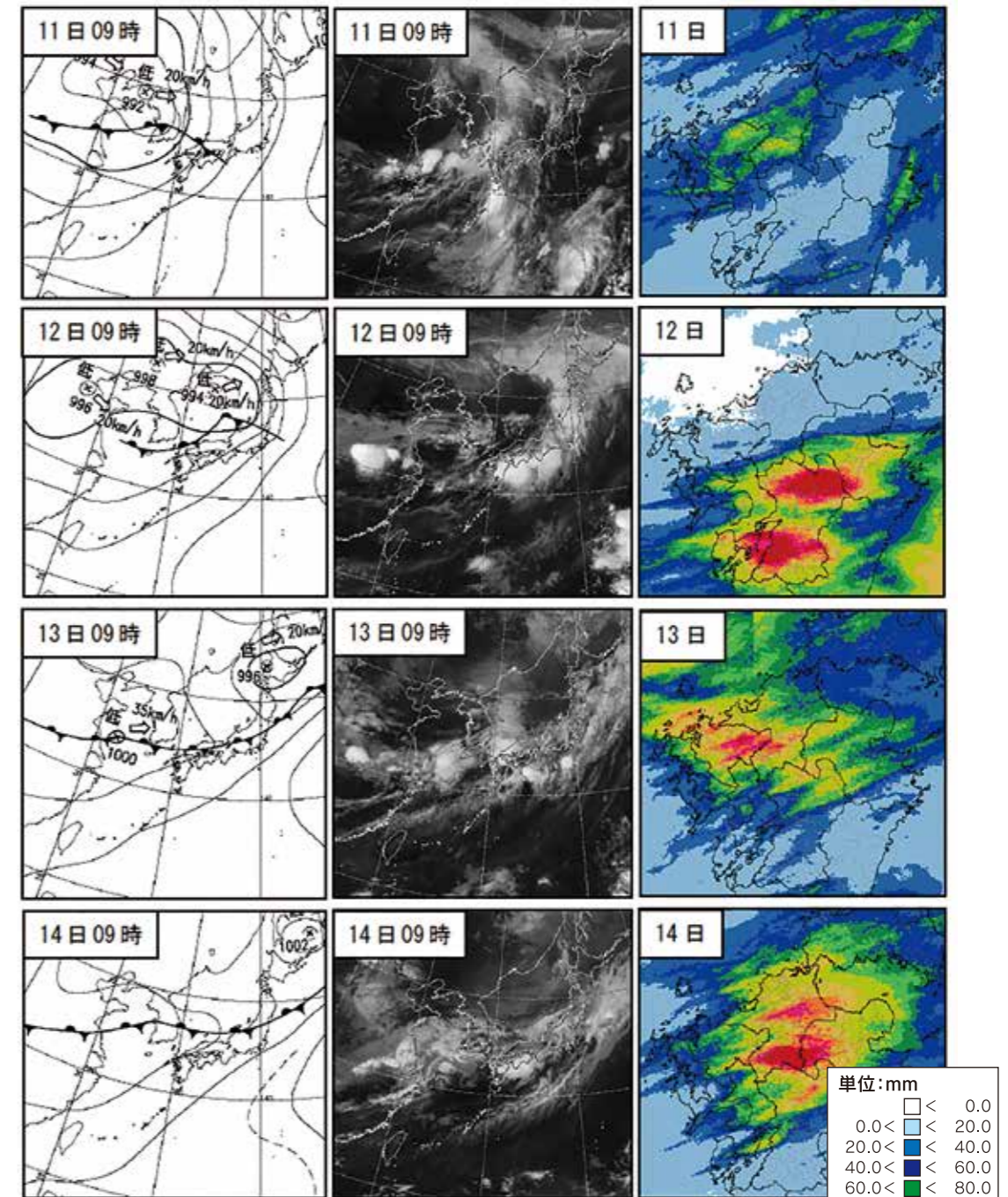
八女市黒木のアメダスの記録によると、14日11時30分までの24時間降水量が1976年の観測開始以来最高の486.0ミリを記録した。この大雨について、気象庁は「平成24年7月九州北部豪雨」と命名した。

アメダス総雨量分布図(7月13~14日)



出典:福岡管区気象台「災害時気象速報平成24年7月九州北部豪雨」(平成24年7月31日)

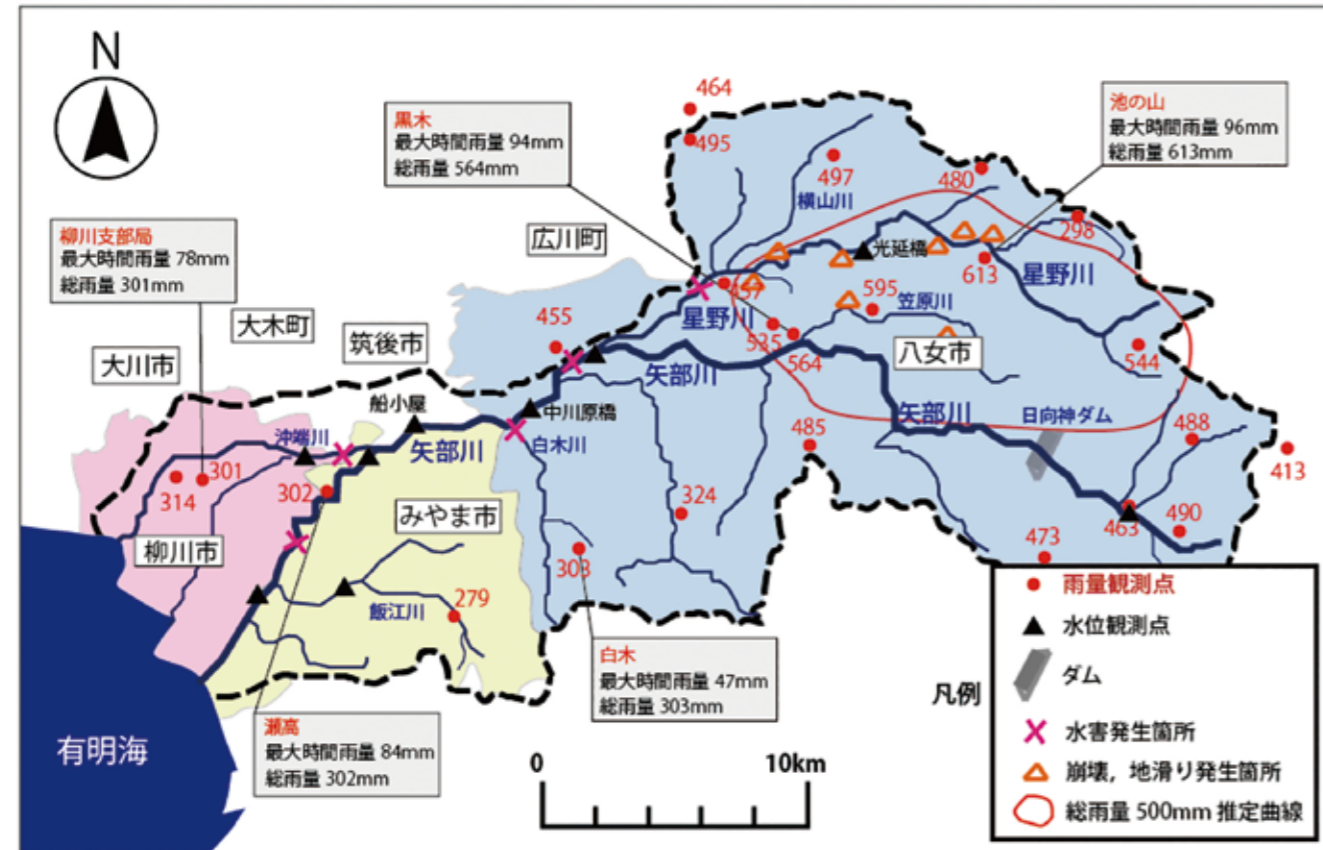
地上天気図・気象衛星画像(赤外)・日降水量分布図



出典:福岡管区気象台「災害時気象速報平成24年7月九州北部豪雨」(平成24年7月31日)

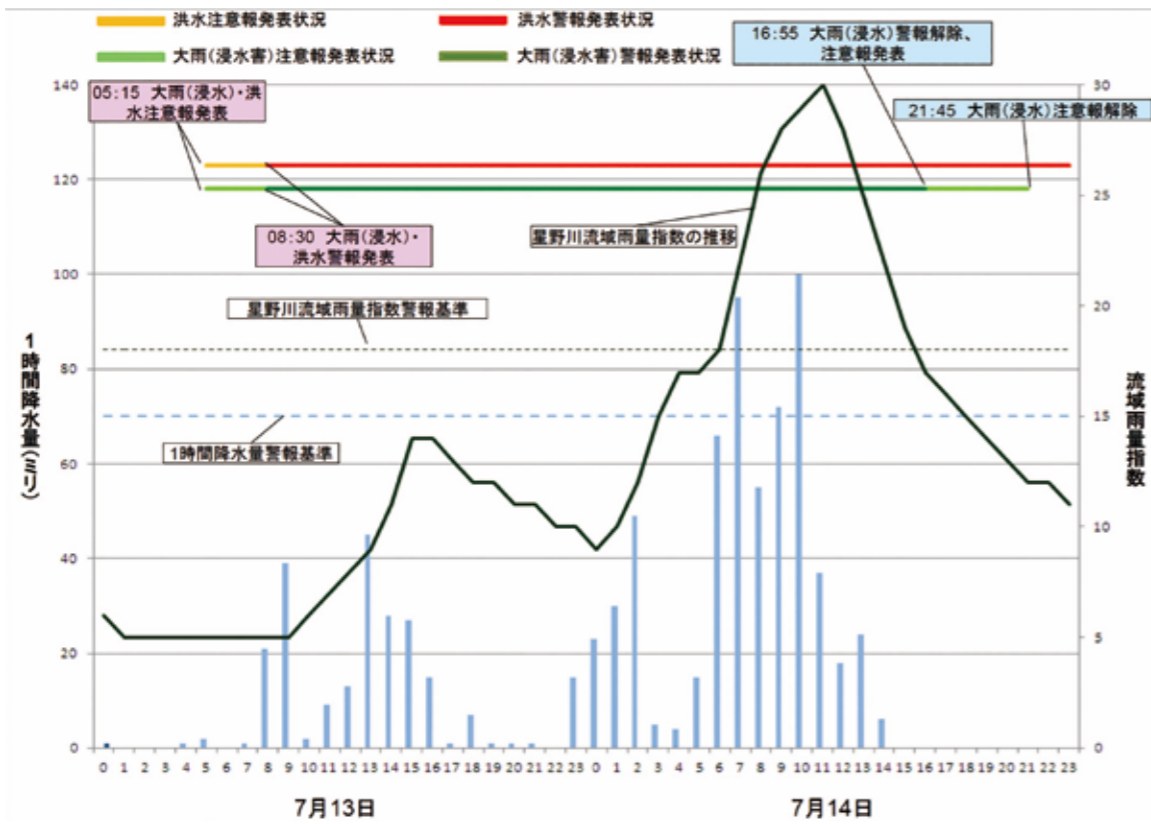
※解析雨量による

矢部川流域の降雨の状況

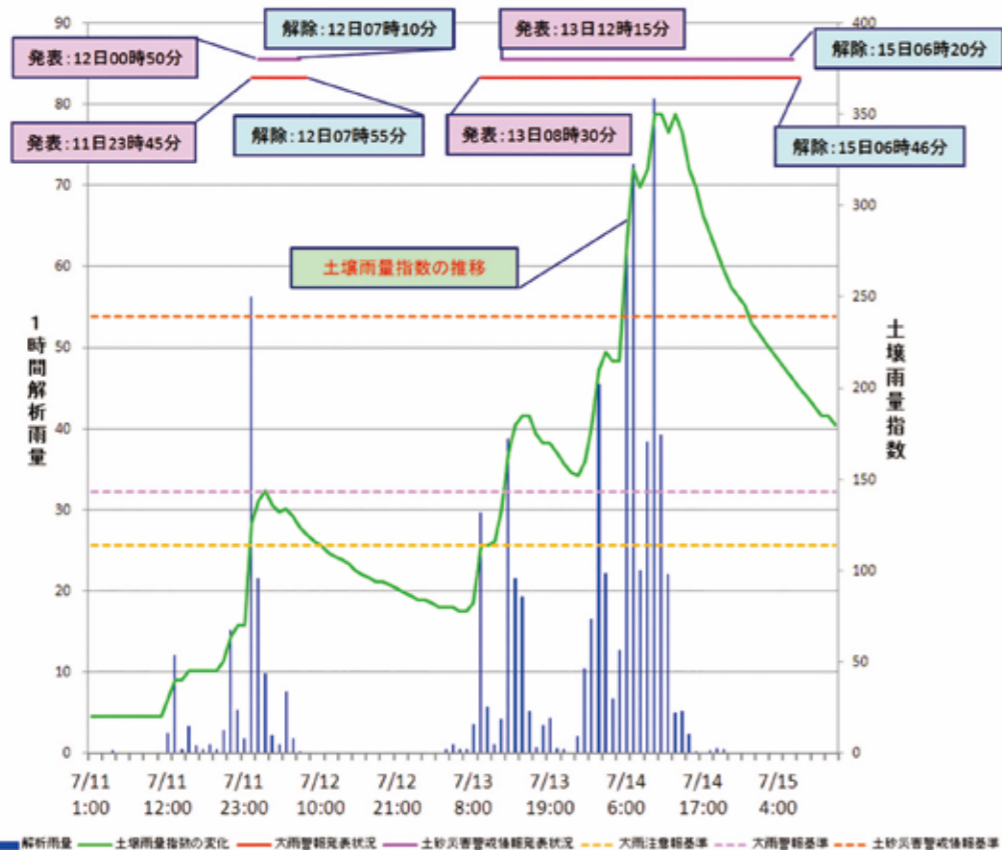


出典:河川情報センター成果報告会

八女市：警報等の発表状況と流域雨量指数等の推移(2012年7月13日～14日)



八女市星野村：警報等の発表状況と土壌雨量指数等の推移(2012年7月11日～15日)



出典：福岡管区気象台

八女市各地の降水量

(単位:mm)

日時		八女支局	立花辺春	黒木	上陽紅葉	星野池の山	矢部柴庵
7/11	日計	78.0	33.0	87.5	124.0	55.0	34.0
7/12	日計	15.0	67.0	27.0	34.0	40.0	93.0
7/13	日計	149.0	107.0	119.5	162.0	142.0	189.0
7/14	1:00	29.0	34.0	22.0	21.0	26.0	5.0
	2:00	36.0	36.0	53.5	35.0	51.0	16.0
	3:00	0.0	14.0	9.5	6.0	19.0	77.0
	4:00	1.0	16.0	2.0	6.0	9.0	19.0
	5:00	13.0	12.0	16.5	20.0	24.0	11.0
	6:00	46.0	34.0	58.5	86.0	51.0	8.0
	7:00	40.0	56.0	52.5	37.0	74.0	48.0
	8:00	19.0	9.0	22.0	6.0	20.0	54.0
	9:00	50.0	1.0	57.0	9.0	42.0	6.0
	10:00	44.0	0.0	87.0	20.0	96.0	3.0
	11:00	27.0	0.0	24.0	34.0	33.0	8.0
	12:00	1.0	0.0	8.0	4.0	17.0	4.0
	13:00	0.0	0.0	0.0	39.0	0.0	26.0
	14:00	0.0	4.0	2.5	8.0	5.0	13.0
	15:00	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	1.0
	16:00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	17:00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日計		306.0	216.0	415.0	335.0	468.0	301.0
4日間合計		548.0	423.0	649.0	655.0	705.0	617.0

…50mm以上

出典：(黒木)福岡管区気象台、(上陽紅葉)国土交通省水文水質データベース、(その他)福岡県土整備部河川課

アメダスによる筑後地域各地の降水量(極地表)

アメダス地点名(市町村名)	日降水量(mm)				期間合計降水量(mm)	最大日降水量(mm)		最大1時間降水量(mm)		最大3時間降水量(mm)		最大24時間降水量(mm)	
	11日	12日	13日	14日		降水量	起日	降水量	起時	降水量	起時	降水量	起時
久留米(久留米)	93.0	19.5	219.0	137.5	469.0	219.0	13日	71.5	14日 05:40	136.0	13日 15:10	322.5	14日 07:00
耳納山(久留米)	115.0	23.0	232.0	232.0	602.0	232.0	14日	80.0	14日 06:23	114.0	14日 07:30	392.0	14日 07:40
黒木(八女市)	87.5	27.0	119.5	415.0	649.0	415.0	14日	91.5	14日 09:47	174.5	14日 10:20	486.0	14日 11:30
柳川(柳川市)	70.5	31.0	146.0	167.5	415.0	167.5	14日	81.5	14日 06:48	111.5	14日 07:20	281.0	14日 07:10
大牟田(大牟田市)	24.0	93.0	62.5	123.0	302.5	123.0	14日	43.5	14日 02:15	84.0	12日 02:20	156.5	14日 06:00

…観測史上最大

…7月の観測史上最大

※極値の統計は統計期間10年以上の地点を対象

出典：福岡管区気象台

八女市の降雨状況

八女市では、13日夜遅くから14日午前にかけて雨脚が強まった。次ページの降水量データによると、13日7時～9時に徐々に雨脚が強くなっている。10時を過ぎた頃に雨はいったん弱くなり、正午過ぎには再び強くなり、17時頃には小康状態となった。深夜23時を過ぎた頃から次第に雨が強くなり、14日3時から4時頃にまた小康状態に。ところが、5時から6時にかけて一気に雨脚が強くなり、各観測地点における降水量の数値は一気に跳ね上がった。雨は14日の午前中降り続き、記録的な降水量を観測した。

気象台が発表した黒木の観測地点のデータによると、7月11日から14日までの総降水量は649ミリ、14日の1日の降水量は415ミリだった。特に大雨となった7月14日8時47分～9時47分の1時間の降水量は91.5ミリ、7時20分～10時20分の3時間の降水量は174.5ミリだった。これらは、昭和51(1976)年に観測が始まって以来、史上最高の記録となった。

福岡県が設置した雨量計による降水量データは上記の八女市各地の降水量の表の通りである。30ミリ以上の雨で山崩れやがけ崩れが、50ミリ以上で土石流が起こりやすくなるといわれており、土石流を起こすほどの大雨が14日未明から降ったことがわかる。